

22. 回転椅子方式による横断シンチグラフィの試み

小山田日吉丸 福喜多博義 川合 英夫
 長岩 清之 照井 頌二 上原 敏敬
 (国立がん, RI 診)
 喜利 元貞 (島津)

われわれは回転椅子を用いて人体を回転させることにより、通常のシンチカメラによる横断シンチグラムをとることを試みている。椅子はその目的のために特別に考案されたものを使用している。患者をその椅子に腰掛けさせ、検出器を立てた状態にしたシンチカメラ (Ohio Nuclear Σ 410S) の前で、手動で 10° ずつ回転させる方式でデータ採取を行なった (シンチパック 1200)。

基礎実験として、直径約 20 cm の円筒型ファントムを ^{99m}Tc の溶液で満たして横断像をとり、均一性のチェックをしたところ、最大 15% 近いばらつきがみられた。解像力についての実験では、Hot な線源の場合、直径 1 cm の円柱をも描出し得た。しかし、cold の像については直径 2.4 cm の円筒は描出し得たが、1.5 cm のものは描出できなかった。一方、アルダーソン肝ファントムに入れた球は、直径 3.7 cm, 2.7 cm, 共に横断像の上に欠損像として描出し得た。

現在、肝臓についての臨床データをとっているが、小さな肝内転移巣は描出できないものの、原発性癌症例の腫瘍のひろがり状態をかなりの確に把握できた例や、肝の変位、変形を正確に把握できた症例もある。この方法は、一通りデータを採取したあとは、任意のスライスを呼び出すことができるという点で利点があり、今後の改良と発展が期待される。

23. 大静脈奇型 4 例の RI-アンジオグラム

藤岡むつみ 真下 正美 平岡 久樹
 鈴木 健之 井出 雅生 宮前 達也
 (埼玉医大・放)

ここ数年間に埼玉医科大学核医学にて経験した 4 の例大静脈奇型を報告した。

I. 上大静脈奇型

a. 重複上大静脈: case 1, 16歳女性。学校検診で胸部 X-P の異常を指摘され来院。心電図所見と合わせて左 SVC が疑われ RI Heart Angio を行なった。この結果、重複上大静脈と診断、なお、心奇型の合併はなかった。

b. 左側上大静脈: case 2, 60歳女性。大腿骨頭部骨折のため当院整形外科入院。術前の胸部 X-P にて異常を指摘され RI Heart Angio を行なった。この結果、右上肢の血液は、左腕頭静脈より左 SVC を通り、右房に流入する左側上大静脈であった。

II. 下大静脈奇型

a. 重複下大静脈: case 3, 37歳女性。術後の右腸骨静脈血栓を RI で検査するうち、重複下大静脈を疑われ X線 Venocavogram などを行ない上記診断がなされた。このほかに合併奇型はみられていない。

case 4: 奇静脈に流入する重複下大静脈と下大静脈後尿管の合併をみた 37歳男性である。主訴は血尿、蛋白尿。IP にて右水腎症をみとめ、下大静脈後尿管の疑いにて X線 Venocavogram を施行したが、胸部での静脈血流の状態はとらえられず、術後行なった RI Venogram にて奇静脈から SVC, 右房へ流入する奇型と判明した。

以上 4 例の RI における静脈奇型の臨床診断を紹介し、スクリーニング検査として RI 動態検査の有用性を報告した。

24. 尿滲流症例における核医学診断

藤野 淡人 池田 滋 石橋 晃
 (北里大・泌)

尿路への尿滲流現象は、外傷、尿路感染、腫瘍、あるいは結石症などによる尿路通過障害に伴って生ずる比較的稀な泌尿器疾患であるが、それら urinary extravasation の診断における腎シンチフォトグラフィーの有用性について、著者らがこれまでに経験した 2 症例を示すとともに、若干の文献的考察を加えた。

使用装置は LFOV 型 gamma camera を、scanning agent は ^{99m}Tc -DTPA を、またイメージは、routine study として、静注後、3 秒間隔で Perfusion phase を、また静注後、1 分目より、1 分間隔で accumulation および excretion Phase の各イメージを 16 分目まで得た。

症例は腎移植後に生じた urinoma および尿管下端部結石症に合併した腎周囲の urinoma で、前者では、一連の Perigraft fluid collection, 特に lymphocele との鑑別が問題となり routine study に加えて late image を得る必要性が認められた。また、Harden らの言うように設備など事情が許せば Post voiding image を得られれば、さらにその診断精度が増すものと思われる。後者では routine study により、すでに urinary extravasation が